

# A C E REVIEW

the Activity Center for English

# 2023



英語教育センター  
(Activity Center for English)

**2023 Volume 5**

ISSN 2434-8406

## ACE COMMITTEE MEMBERS 2023

### センター長

小山 敏子 (教育学部)

Toshiko Koyama (Faculty of Education)

### 文学部

杉本 香

(Faculty of Literature)

*Kaoru Sugimoto*

### 教育学部

鈴木 幸平

ベイリー・フィリップ

ベー・シュウキー

(Faculty of Education)

*Kohei Suzuki*

*Philip Bailey*

*Siewkee Beh*

### 人間社会学部

グローガン・マイルズ

池田 香代

(Faculty of Human & Social Sciences)

*Myles Grogan*

*Kayo Ikeda*

### 薬学部

森本 正太郎

(Faculty of Pharmacy)

*Shotaro Morimoto*

### 英語教育センター

荒川 亜希

山本 由記

(Activity Center for English)

*Aki Arakawa*

*Yuki Yamamoto*

# I. ACE PROGRAM

Philip Bailey · Siewkee Beh · Myles Grogan · Aki Arakawa

ACE appointed Philip Bailey as a Specially Appointed Lecturer, addressing staffing concerns from the previous academic year. The primary goals for the 2023 academic year were to offer additional support to students, particularly in the areas of EIKEN preparation, teacher recruitment interview tests, and practical English conversation.

## 1. EIKEN Preparation System:

A structured EIKEN preparation system was implemented to cater to the needs of students actively engaging in EIKEN studies. The system was managed using an online form, in which students gave their details, stated test section preferences, and selected time slots for practice sessions. The system was advertised through campus posters and online platforms, and used QR codes for easy access and sign-up via smartphones (see Figure 1). Student requests were relayed to designated instructors, Philip Bailey and Myles Grogan, who conducted face-to-face practice sessions for students prior to testing throughout the academic year. This proactive approach resulted in 10 students undertaking the EIKEN test through ACE, half of whom used the preparation service (see Table 1). To further augment EIKEN preparation opportunities, ACE aspires to expand practice sessions to a weekly schedule throughout the next academic year, providing an extended timeframe for students to avail themselves of these valuable resources.

Figure 1. EIKEN Preparation System



Table 1. Number of Participants

EIKEN	Participants
Summer Session 2023	1 (Writing)
Fall Session 2023	1 (Writing · Speaking)
Winter Session 2024	4 (Writing · Speaking)

## 2. ACE Lessons:

Throughout the academic year, ACE Lessons were designed to be wide-ranging, encompassing vocabulary, grammar-focused, topic-based, and situation-themed lessons. The second semester introduced a more standardised structure, using an English conversation textbook with varying units and themes each week. These lessons consistently emphasised the development of the four language skills—reading, writing, listening, and speaking—while adhering to a communicative and student-centred approach.

## 3. Lunchtime English Café:

The Lunchtime English Café, a more informal and relaxed alternative to ACE Lessons, featured Philip Bailey as the sole full-time teacher for all sessions (see Figure 2). In an effort to enhance the Lunchtime English Café experience, ACE hopes to foster a more authentic cafe atmosphere to attract a broader student participation.

Figure 2. Lunchtime English Café



## 4. Annual Events:

This year, we co-hosted the “Tanabata Festival 2023”, the “Halloween Event 2023” and the “Winter Event 2023” with the International Exchange Office as part of our usual

lineup of events. All events centered around the first floor of the Shigaku-kan building, making it convenient for students to join. For the Tanabata Festival, we organized English riddles (see Figure 3), while for the Halloween Event, we conducted a stamp rally activity (see Figure 4 and Table 2). For the Winter Event, we hosted quizzes to help students feel the fun of learning English (see Figure 5). Moving forward, we aim to keep fostering activities that keep students motivated in their English learning journey.

Figure 3. Tanabata Festival



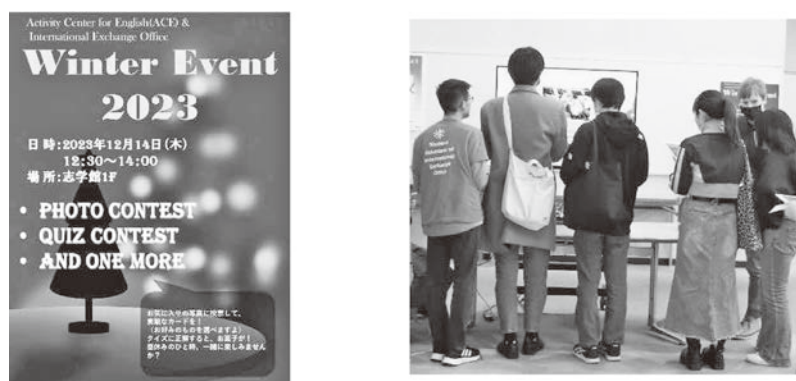
Figure 4. Halloween Event 2023



Table 2. Number of Participants in the Stamp Rally Activity

Faculties	Departments	Participants
Literature	Japanese Language and Literature	6
	History and Culture	0
Education	Education	28
Human and Social Sciences	Human and Social Sciences	0
	Sports and Health Sciences	1
Pharmacy	Pharmacy	2
Total		37

Figure 5. Winter Event 2023



During the "Winter Event 2023" photo contest, participants were invited to submit photos related to the theme of "Happiness" to tani-WA. The aim of this activity was to raise awareness of the ACE program more broadly (see Table 3).

Table 3. Number of Participants in the Photo Contest

Faculties	Departments	Participants
Literature	Japanese Language and Literature	1
	History and Culture	7
Education	Education	18
Human and Social Sciences	Human and Social Sciences	4
	Sports and Health Sciences	13
Pharmacy	Pharmacy	11
Total		54

## II. e-Learning プログラム関連

森本 正太郎・Myles Grogan

大学の英語教育における学習時間を確保する必要性から、本学では特に授業時間外学習の時間を増やすことを期待して、2017年度より e-Learning を導入している。導入の段階において、e-Learning 学習を学生の自主利用に任せていると、利用率が伸びず実用性が極めて低くなることを懸念したことから、講義科目の成績評価に組み入れることを明示することとした。具体的には共通教育科目「英語 IA/IB」及び「英語 IIA/IIB」（ともに再履習クラスを含む）の成績評価のうち 10%に、e-Learning プログラムに設定された課題達成度を含めることと定め、学生の取り組み意欲の向上を図っている。加えて、Summer Activity や Spring Activity など、夏休み・春休みなど授業期間外でも自発的に e-Learning に取り組む自主参加型企画を実施、キャリアセンターの「キャリア開拓塾」と連携して特に難関企業への就職を目指す学生を対象とした e-Learning 利用による TOEIC®対策サポートなどを行っている。このように「英語 IA/IB」、「英語 IIA/IIB」の履修者だけでなく、全学部生を対象に、いつでも・どこでも英語学習に取り組める環境を提供してきた。

今年度も継続して株式会社 EdulinX（旧リアリーイングリッシュ株式会社）の Practical English Starter、Practical English 8、KICKOFF、WordMine2 の 4 種類のプログラムを運用している。加えて、オンライン英会話プログラムとして Virtual Live Training（以下 VLT）、EZ to Talk の 2 種類を活用し、ネイティブスピーカーと英会話できる機会の提供と、事前学習として e-Learning を活用する仕組みづくりを整えている。

共通教育英語科目の履修生に対しては、日常・ビジネス・旅行など、豊富なトピックでコミュニケーションを学習できるプログラムを課している。具体的には基礎レベルの Practical English Starter を「英語 IA/IB」履修者に、標準的レベルの Practical English 8 を「英語 IIA/IIB」履修者に課している。また、TOEIC®受験を考えている学生には TOEIC®対策用 KICKOFF を、語彙力を増やしたい学生には WordMine2 といったように、学習目的に合わせたプログラムも選択可能となっている。図 1 を HP、tani-WA に掲載することにより、各プログラムの特徴を周知し、希望に沿って選択しやすいよう努めている。

なお、e-Learning の導入・設置経緯や過去の運用状況に関しては、過去の『ACE Review』で、詳しく紹介している。

図 1. 利用できるプログラムの案内

利用できるプログラム

<b>Practical English Starter</b> ＜Practical English Starter＞ ・基礎英語を学習するためのプログラム ・コミュニケーションの基礎を養成 ・英語 IA・IB、再履習クラスの履修者に配属	<b>Practical English 8</b> ＜Practical English 8＞ ・総合的な英語力をバランスよく強化できる ・レッスン数・頻度が豊富 ・英語 IIA・IIBの履修者に配属
利用したいプログラムを 英語教育センター（ACE）事務室（法守館5階 4-502） eikyuu-center@gosaka-ohsaka.ac.jp にお問い合わせください。	
<b>KICKOFF FOR THE TOEIC® L&amp;R</b> ＜TOEIC® TESTキックオフ＞ ・TOEIC®対策用プログラム ・4つの模擬試験（60分×4回）でテスト形式に慣れる ・新着書のみ配属	<b>WordMine 2</b> ＜WordMine 2＞ ・単語学習・読解力強化のためのプログラム ・約6,600の単語を収録 ・新着書のみ配属

## 1. 主な取り組み

### 1.1 e-Learning 学内相談会

e-Learning のアカウント登録数及び利用率の向上を促すため、ACE では様々な取り組みを行っている。最初に挙げるのは「e-Learning 学内相談会」である。これは e-Learning 導入時より継続して実施しており、自習者に広く e-Learning を周知することに焦点を当てている。これまでの傾向として、相談会への質問内容は e-Learning の登録方法が大半であったことを踏まえ、共通教育科目「英語 IA・IIA」履修者で e-Learning が未登録である学生を抽出し、相談会への案内を配信して参加を促すこととした。具体的には 5 月 26 日（金）時点で「英語 IA」の基礎・標準クラス 130 名、「英語 IIA」の基礎・標準クラス 125 名、再履修クラス 64 名を対象に案内メールを配信した。また近年は、教育学部学校教育専攻の協力を得て「基礎ゼミ III」スタンプシートの課題として e-Learning の取り組みを含めることとし、この相談会への出席をポイントとすることにより e-Learning を周知する範囲を広げることに努めた。今年度の「e-Learning 学内相談会」の実施状況を表 1 にまとめた。

表 1. e-Learning 学内相談会実施状況

日時	場所	担当者	参加者	質問内容
5/24~5/31 12:45~13:30	4-505 (情報III)	森本	学校教育専攻 37名	スタンプシートについて
			その他 2名	e-Learning登録方法について
合計			39名	

### 1.2 e-Learning クラス別集計

前述したように、共通教育英語の成績評価と e-Learning 課題達成度を連動させていることから、利用率向上のためには共通教育英語担当の先生方の協力は不可欠である。そこで ACE では、毎年、「e-Learning クラス別集計」として登録率・課題達成率・レッスン取り組みなしの割合をまとめ、担当の先生方に配信している。クラス別集計は各期最低 1 回配信しているが、今年度は計 3 回（前期 1 回、後期 2 回）配信した。先生方と情報共有するとともに、担当クラスの学生に対して課題達成度をより上げるよう指導をお願いした。

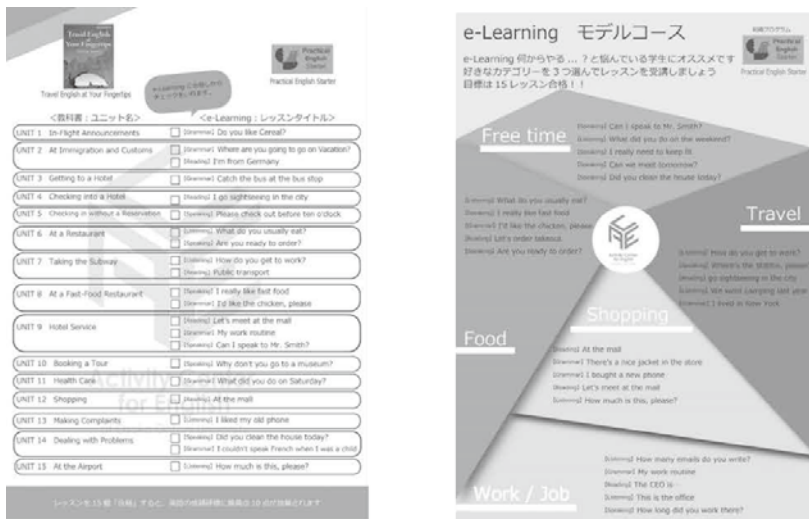
### 1.3 モデルコースの作成

今年度の新しい取り組みとして e-Learning 学習のモデルコースを作成した。e-Learning プログラムには様々なトピックがあり、結果としてレッスン数も多く選択の自由度は高い、一方で効率を重視する学生にとっては選択すること自体が負担となり取り組み意欲を低下させる懸念があった。そのため、学生がどのレッスンから取り組めばよいかの指針を例示す



ることにより、取り組み意欲を向上させることが目的である。作成したモデルコースは2種類あり、1つは「英語 IA/IIB」で最も多く採用されている教科書から、内容に則したプログラムを選定し、教科書の進捗状況に合わせて進めることを想定して作成したコース、もう1つは旅行・食べ物・ショッピングといった日常英会話で活用できるトピックの中から、学生が興味を持ったものを中心に進めることができるコースである。この2種類のモデルコースは、今年度後期から共通教育英語担当教員を通じて学生に案内してもらうことに加え、tani-WAにも情報を公開して、全学部生に周知している（図2）。

図2. e-Learning 学習のモデルコース2種類



#### 1.4 英語履修者の e-Learning 利用状況

今年度の英語履修者の e-Learning 利用状況は表2の通りである。1.1、1.2 で述べた取り組みを行った結果、登録率はこれまで通り 95%以上を達成することができた。また、今年度に特筆すべきこととしては、「英語 IIA/IIB」の履修者つまり、2回生の取り組みが良好であったことが挙げられる。課題達成率が前期 86.7%、後期 84.0%と、やや後期は達成率が落ちたものの、前年度比が+8.4%と大幅に伸びていることが分かる。「レッスンの取り組みなし」、すなわち課題をまったく行っていない学生の割合は「英語 I・II」ともに、前期よりも後期が高い数値となっている。このことから、e-Learning 課題を前期・後期に渡って継続的に取り組むような働きかけを検討していく必要がある。

表 2. 共通教育英語履修者の e-Learning 利用状況

		登録率		課題達成率			レッスンの取り組みなし		
		(%)	比較	(%)	比較		(%)	比較	
			対前年度		対前期	対前年度		対前期	対前年度
1回生 英語IA/IB	前期	95.1		82.7		6.8			
	後期	97.7		73.2	-9.5	17.4	+10.6		
	年間	96.4	-1.3	78.0	-3.8	12.1	+2.8		
2回生 英語IIA/IIB	前期	96.0		86.7		3.9			
	後期	97.7		84.0	-2.7	11.1	+7.2		
	年間	96.9	-2.8	85.4	+8.4	7.5	-8.7		
合計	前期	95.6		84.7		5.4			
	後期	97.7		78.6	-6.1	14.3	+8.9		
	年間	96.6	-2.1	81.7	+2.3	9.8	-3.0		

※再履修クラスを除く

### 1.5 表彰制度・Summer Activity・Spring Activity

ACE では、英語履修者や自習者に e-Learning の利用を広く推奨するための仕組みとして、真摯に取り組んだ学生を表彰する制度を設けている。年間を通じた e-Learning 学習に対しては「e-Learning 表彰式」において、夏休みと春休みの長期休暇期間の自主学習に対しては、それぞれ Summer Activity と Spring Activity の表彰式において、個々に設定した要件を達成もしくはそれに準じた取り組みをした学生を表彰している。

今年度の e-Learning 表彰要件は 1) 成績が良好なこと、2) 20 時間以上を学習していることとし、HP・tani-WA や英語担当教員を通して学生に広く周知した。その結果、最優秀賞 1 名、優秀賞 1 名、優良賞 5 名に表彰を行った (図 3・表 3)。

図 3. e-Learning 表彰式

左：学長室表彰式、右：当日欠席者の表彰式 (ACE セミナー室)



表 3. e-Learning 表彰 受賞者

	学科	学年	実施プログラム※1	平均テスト スコア	合計受講時間
最優秀賞	薬学科	1回生	PES (修了)	98.0%	64時間53分
			KICKOFF (修了)	90.0%	
			WM2 (修了)	-	
優秀賞	歴史文化学科	2回生	PE8 (修了)	59.5%	24時間48分
	人間社会学科	3回生	KICKOFF	80.0%	19時間18分
優良賞※2	薬学科	1回生	PES (修了)	84.0%	19時間17分
			PE8	68.0%	18時間14分
	薬学科	1回生	PES (修了)	91.0%	17時間53分
			PES (修了)	97.0%	17時間51分

※1 PES・・・Practical English Starter / PE8・・・Practical English 8 / WM2・・・Word Mine 2

※2 表彰要件②の 20 時間以上の学習に達しなかったが、成績が良好であることから、「優良賞」とする

夏休み期間には、Summer Activity を開催している。Summer Activity では、TOEIC®受験を考えている、または受験する予定の学生に焦点を当て、TOEIC®対策教材として e-Learning に取り組めるよう、KICKOFF を活用した企画を行った。Summer Activity の達成条件は、1) VLT (オンライン英会話) を 1 回受講、2) WordMine を 5 時間受講していること、3) KICK OFF を 20 ユニット合格すること、この 3 つの条件のうち 2 つ以上クリアすることとした。今年度は 12 名の学生が挑戦し、内 5 名の学生が条件を達成した (図 4)。

図 4. Summer Activity フライヤーと表彰式



また、1月の後期授業終了後から2月中旬までの春休み期間中に Spring Activity を開催している。Spring Activity では、Summer Activity とは取えて評価項目の趣向を変え、TOEIC®模擬試験のスコアアップ幅、e-Learning のテストスコアや受講時間、VLT への参加状況まで総合的に評価する方式を取っているだけでなく、図 5 の通りスタンプシート形式にすることで、学習のインセンティブを高める工夫を行っている。

図 5. Spring Activity フライヤーとスタンプシート



## 2. オンライン英会話

現在導入しているオンライン英会話は、2021 年度に試験運用を開始し、2022 年度から本格運用を始めた VLT と、今年度新たに導入した EZ to Talk の 2 種類がある。どちらもオンライン英会話であることから、ネット環境が整っていれば、学内に限らず自宅でも受講が可能である。特に EZ to Talk は 1 対 1 の個人レッスンであること、24 時間受講が可能で学生が好きな時間に自由にオンライン予約できるところが魅力であり、そうした利点を強調して学生への広報・周知を行っている。

VLT は試験運用を始めた年から学生からの評価が高かったことから、実際に受講した学生からのコメントを広報として利用して、より多くの利用者の開拓につながることを期待している。今年度前期に実施したアンケートでは表 4 のコメントが寄せられた。このようなコメントに加え、改善ポイントや要望なども聞き取り、まとめたもの tani-WA で公開することにより、学生に広報・周知を行っている。

表 4. 前期、受講者アンケートのコメント（一部）

<p>&lt;レッスンを通して参考になった点、スキルなどがありましたらお聞かせください。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスンを通して、今までよりもさらに英会話力を高めることができたと感じています</li> <li>・英語が全くわからない僕でも楽しく授業に参加することができたので、わからないでもわからないなりに喋ることが必要だと思いました</li> <li>・自然な対話表現を教えていただけるのがとてもありがたい。瞬時に修正していただけるので、間違いに気づき、自分のものとなるまでの時間が早い気がする</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

表 4. 前期、受講者アンケートのコメント（一部）（つづき）

<p>&lt;他の学生に勧める際のVLTオススメポイントを教えてください。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の学生と楽しく英会話ができる点がお勧めだと思います。</li> <li>・海外の生の人と喋れるのが楽しかった！</li> <li>・初めは緊張するし、うまく話せるか不安ですが、先生たちは面白いし、優しいので50分一瞬で終わります。</li> <li>・英語のリスニングに役立つ</li> <li>・普段の生活では経験できないネイティブと話す機会ができる。</li> <li>・難易度が優しい</li> <li>・日本にしながら無料で英会話をうけれるところ</li> <li>・失敗を恐れずチャレンジできる絶好のチャンス！有償でもいいレベルの内容が、何度でも受けられるだけでなく、しっかり受ける度にスキルが上がっていることが実感できます！</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3. アンケート調査

e-Learning の利用を促進するためには、実際に使用している学生の意見を聞くことが重要である。本学の場合は表 2 で示した通り、共通教育英語履修者の e-Learning 登録率が 95%を超えているので、この英語履修者を対象に e-Learning に関する利用意識を探ることとした。加えて、学習を促す役割を担う教員側の意見・感想も収集した。

#### 3.1 実施時期・対象

アンケート調査は、学生・教員ともに「英語 IA/IB」及び「英語 IIA/IIB」の後期授業の第 15 週目に実施した。事前に学生向けアンケートとマークシートを授業担当教員へ配布し、授業内で実施してもらうよう依頼した。回収したアンケートは期限内に教務課または ACE 事務室に提出してもらう方法をとった。回収率などの詳細は表 5・表 6 の通りである。

表 5. 教員向けアンケート調査の実施詳細

対象教員	18名
回収枚数	15枚
回収率	83.3%

表 6. 学生向けアンケート調査の実施詳細

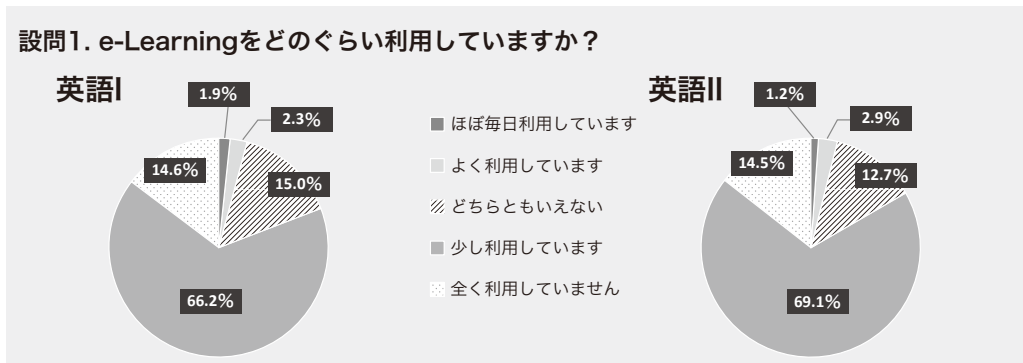
	英語I <sup>※</sup>	英語II <sup>※</sup>
配布枚数	483枚	469枚
回収枚数	432枚	408枚
回収率	89.4%	87.0%

※再履修クラスを含む

### 3.2 学生向けアンケート調査結果

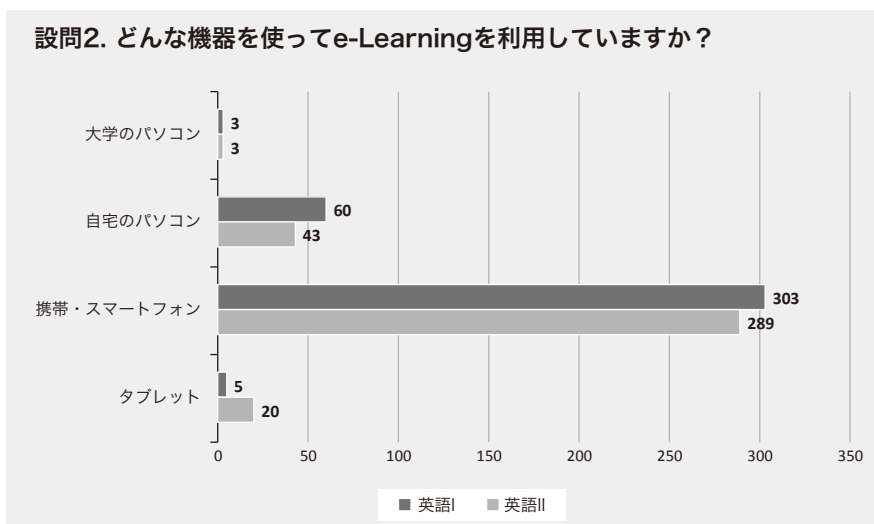
アンケート内容は6つの項目を設定し、回答は5段階評価とした。各項目の内容と集計結果を以下にまとめた。「設問1. e-Learningをどのくらい利用していますか？」に対する回答は図6の通りである。「少し利用しています」が半数を超え、共通して最も多かった。一方で、「全く利用していません」と回答した学生が「英語I」、「英語II」において、それぞれ14.6%、14.5%となった。

図6. e-Learningの利用について



「設問2. どんな機器を使ってe-Learningを利用していますか？」については、「英語I・II」ともに、大半の学生が携帯電話やスマートフォンを使うと答えている（図7）。本学では2021年度入学生（現3回生）からパソコン・タブレットを必携化しているにも関わらず、e-Learningに関しては通学の時間帯や隙間時間に取り組める利便性を重視し、スマートフォンなどを利用していることが明らかである。

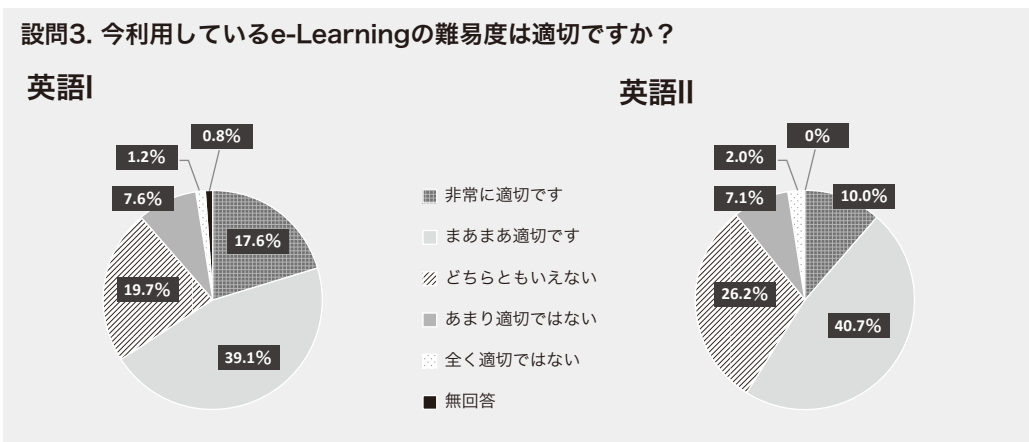
図7. e-Learningを利用するとき使用する機器



今後もこの傾向が続くのか注視して行くとともに、現状では e-Learning コンテンツの選定において、スマートフォン対応の重要度は引き続き高いと言える。

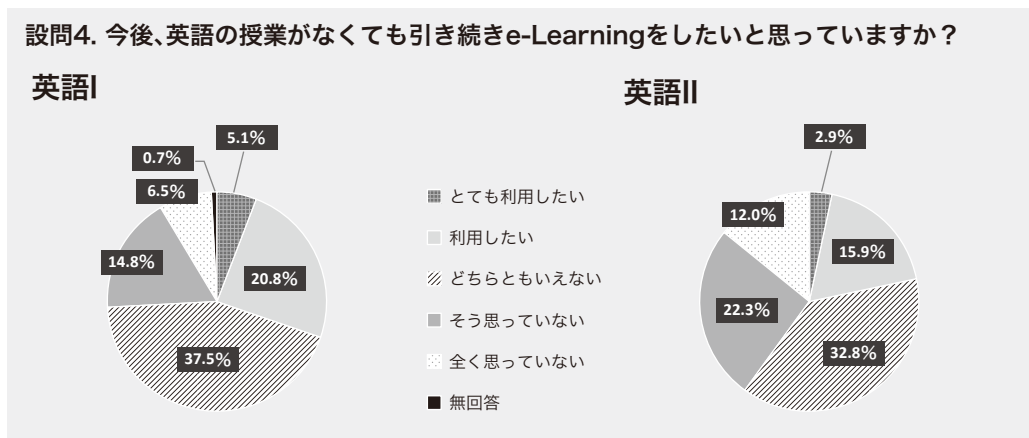
「設問 3. 今利用している e-Learning の難易度は適切ですか？」については、「まあまあ適切です」「非常に適切です」と回答している学生が、「英語 I・II」ともに半数を超えた (図 8)。このことから学生は教材のレベルに関してある程度満足していることが窺える。その一方で、「あまり適切ではない」「全く適切ではない」と 9%程度の学生が回答している。

図 8. e-Learning の難易度について



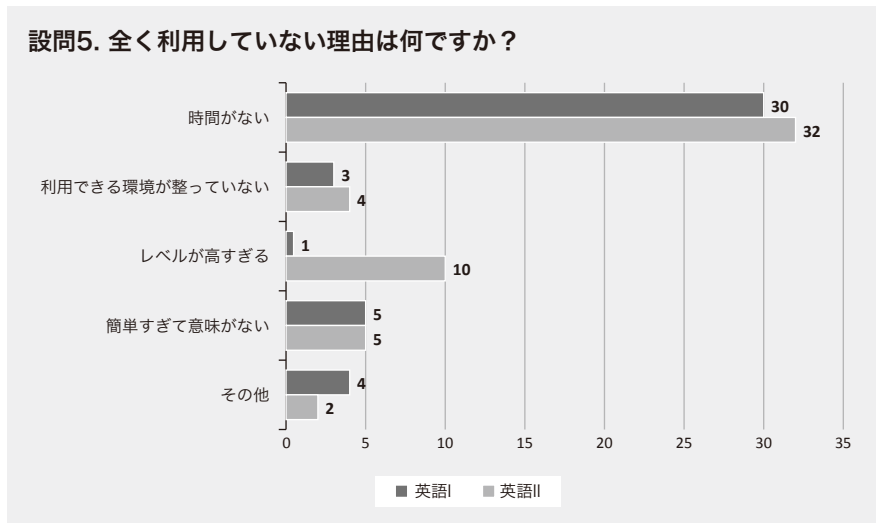
「設問 4. 今後、英語の授業がなくても引き続き e-Learning を利用したいと思っていますか？」については、「英語 I・II」ともに「どちらともいえない」が最も多かった (図 9)。その他、肯定的な回答は「英語 I」履修者の割合が多く、否定的な回答、特に「全く思っていない」については、「英語 II」履修者が 12.0%に対し、「英語 I」履修者は 6.5%となっている。

図 9. 今後の利用について



「設問 5. 全く利用していない理由は何ですか？」については、設問 1 で「全く利用していない」を選んだ学生を対象としている。結果として、「英語 I・II」共に「時間がない」が大部分を占めた（図 10）。「レベルが高すぎる」と回答した学生は「英語 II」において 10 名であった。

図 10. 全く利用していない理由



「英語 II」履修者に配信している Practical English 8 は、Listening・Reading・Grammar の 3 つの診断テストを受講し、テスト結果から受講者にとって最適なレッスンを提供するアダプティブフォーカス仕様となっている。しかしながら、多くの学生がこの診断テストを受講せず、レッスンに取り組んでいることが分かっており、意図せずに難易度の高いレッスンを受講している可能性も考えられる。適切な受講方法の発信を検討していきたい。

また、利用していない理由の自由記述では「やる意味が分からない」のようにモチベーションの低さが見られた（表 7）。前述の質問で連動した講義が終了すると e-Learning の利用も積極的にはしないと回答が大半を占めることも勘案すると、授業外における e-Learning 学習の動機づけを適宜学生に伝えていくことが今後の課題である。

表 7. 設問 5 全く利用していない理由の自由記述

記述内容	
英語I	e-Learningの存在を忘れていた 長続きせず、放置してしまった 忘れていた 課題の範囲しかなかった 面倒だった



表 7. 設問 5 全く利用していない理由の自由記述（続き）

記述内容	
英語II	やっても意味がない 特に理由はない やる意味が分からない あまり意味を感じていない 利用の仕方が分からない e-Learningは課題が出たときしか使わなくていいと思っていたから

表 8. 他の e-Learning 利用に関する記述

記述内容	英語I	英語II
	-	英単語のアプリmikan 短文並べ替えなど リスニングや文法

### 3.3 教員向けアンケート調査結果

英語 I、英語 II を担当する教員全員を対象として、e-Learning に関するアンケートを行った。アンケート内容は 5 項目とし、選択式と自由記述式を組み合わせで行った（表 9）。

表 9. 教員向けアンケートの設問

設問1.	担当学生の反応、e-Learningレベルの難易度についてご記入ください。
設問2.	PESの “We went camping last year”とPE8 “Free time activities”のユニットに実際に目を通していただき、どちらのユニットが難易度や問題内容において、担当されている学生に適していると思われるか？その理由もお書きください。  (a) 英語IA/IBの学生に対して適していると思われるのはどちらですか。 ①PESの “We went camping last year” ②PE8の “Free time activities” ③両方（適している） ④両方合っていない ⑤担当していないので分からない (b) 英語IIA/ IIBの学生に対して適していると思われるのはどちらですか。 ①PESの “We went camping last year” ②PE8の “Free time activities” ③両方（適している） ④両方合っていない ⑤ 担当していないので分からない
設問3.	センターが策定したe-Learning学習のモデルコースについて、改善点などご意見をお聞かせください。
設問4.	学生へのe-Learning指導における、先生の取り組みをご記入ください。
設問5.	英語教育センター事務のサポート体制について、ご意見があればお願いします。

設問 1 については、学生のレベルに拠るところもあるが「特に難しいという声を聞いたことがない」「適正である」との回答が得られた。今年度の再履修クラスは全て Practical English Starter に設定し、難易度の適正化を図ったことも功を奏したと考えられる。

設問 2 については、回答者 13 名中、7 名が Practical English Starter のレッスンは「英語 IA/IB」履修者に適しているとの回答であった。また、Practical English 8 のレッスンは「英語 II」の履修者には少し難しいとの回答が見られた。内容としては「語彙が若干難しい」「問題のタイプがバラエティーに富んでいて、リーディングの長文もあるから」との回答であった。加えて、「基礎クラスの学生はすぐに諦めてしまうのかもしれないので、標準クラスであれば良いのではないか」との意見もあった。

設問 3 の e-Learning 学習モデルコースについては概ね好評であった。その一方で、単に成績評価の一部とするのではなく、いかに授業と関連させていくかといった意見も得られた。また、設問 4 については、多くの先生方が授業内で繰り返し声をかけるとの回答であった。中には登録していない学生には個別対応をするなど、担当の先生方の手厚いサポートにはこの場を借りて感謝申し上げたい。最後に設問 5 については、ログインができないなどのトラブル対応に関するコメントが見られ、ACE 事務室が英語担当教員を適切にサポートできていたことが明らかになった。

#### 4. 今後に向けて

本学の e-Learning 利用の特色として、学習目的に合わせてプログラムが選択できること、学外のネイティブスピーカーとオンラインで英会話も楽しめることを広く周知してきた。また、今年度は e-Learning 取り組みのきっかけとなるようモデルコースの作成も行った。これらを継続していくことにより、利用者数の増加につながることを期待している。

次年度の 2024 年度は従来の TOEIC®対策に加えて、新しいプログラムとして IELTS (International English Language Testing System) 対策に対応した IELTS 入門が追加される。このプログラムは IELTS 試験対策用ではあるが、海外留学や研修での英語力を志向しており、買い物や食事、料理、趣味、スポーツなどの日常会話を中心としたトピックが揃っている。また、アニメーションを使った動画で楽しく学習でき、学習対象者のレベルも TOEIC®スコア 225~545 で設定されていることから、英語基礎力や初歩的なアカデミック英語力を身に付けることを目標としているプログラムとなっている。新しいプログラムを導入することにより、英語授業や自学自習で今年度のプログラムを利用している学生にとってさらに選択の幅を広げることができ、学習のモチベーションアップが期待できる。

オンライン英会話、EZ to Talk に関しては、今年度導入したばかりであることから、本年度の受講者から聞き取りを行い、次年度の活用に活かしていきたいと考えている。このように株式会社 EdulinX の e-Learning を活用して英語の語彙力・コミュニケーション力を培い、ACE で実際にネイティブスピーカーとリアルに対話できる機会を提供することが、学生のスピーキング力の向上につながることを期待している。

### III. 英語検定試験

杉本 香

英検の取得級や TOEIC®スコアは学生自身の英語力を公的に証明できるものであり、留学や就職活動、教員採用試験にも利用されている。ACE では英検・TOEIC®の申込受付や学内実施、試験対策のサポートを行っている。

#### 1. 検定試験の実施

英検は昨年度に引き続き 2023 年度においても、年 3 回の試験申込受付を実施することができた。今年度からは、英検受験を予定する学生のための英検対策講座（ライティング・スピーキング）を 3 回開催し、合計で 6 名が受講した。2023 年度の英検受験状況は表 1 の通りである。

表 1. 2023 年度英検の受験状況

	第1回検定試験			第2回検定試験			第3回検定試験		
	受験者数	一次合格	二次合格	受験者数	一次合格	二次合格	受験者数	一次合格	二次合格*
準1級	-	-	-	1	-	-	1	-	
2級	-	-	-	1	-	-	5	4	
準2級	1	1	1	-	-	-	1	-	
合計数	1	1	1	2	0	0	7	4	

※結果：未確定

また、英検 S-CBT での受験申込みもあった。この試験は英検（従来型）と同じ出題形式を取りつつ、スピーキングテストを吹込み式として 1 日で 4 技能を測ることのできる試験である。毎週実施されているため受験者が都合に合わせて受験日を選択できる利点がある。

英検は教員採用試験において、取得級により一部試験免除・加点等（自治体による）に活用される。教採受験希望者が英検 S-CBT で受験すると、検定料が安価となる助成制度があることを今年度も周知し、受験を推奨した成果もあり、昨年度と同様受験者数が向上した。

TOEIC® IP テストは 2023 年度もオンライン試験だけでなく、後期にマークシート試験を実施することができた。2021 年度からキャリア開拓塾の要望により、実施回数を増やすこととなり、2023 年度においては 5 月・8 月・2 月にオンライン試験、11 月にマークシート試験と、計 4 回実施した。

オンライン試験においては受験者が指定されたテスト期間内に、都合のよい場所や時間で受験することができる利便性がある。これらを HP や掲示板、tani-WA だけでなく、キャリアセンターなど他部署とも連携して受験を推奨した。加えて、学校教育専攻 1 回生の「基

礎ゼミⅢ」、キャリア教育科目「キャリアデザイン」の授業内で実施された ACE ツアーにおいても周知活動を行った。表 2 に 2023 年度 TOEIC® IP の受験状況をまとめた。

表 2. 2023 年度 TOEIC® IP の受験状況

	試験形式	日程	教室	受験者数	平均点
第1回	オンライン	5/26～6/9	－	7	436.4
第2回	オンライン	8/7～8/22	－	5	487.0
第3回	マークシート	11/25	11-201	7	400.0
第4回	オンライン	2/1～2/13	－	4	351.3

## 2. 今後に向けて

2023 年度は、検定試験の実施については昨年度と同様に行い、それらに関する学習機会の提供については新たに英検対策講座を設けることで充実を図った。こうした経験からの知見にもとづいて、今後も検定試験や対策講座の対面実施とオンライン実施の併用を引き続き継続し、多様な受験方法を推奨する。

英検・TOEIC®共に受験者数を向上させていくことが今後の課題である。留学や就職、教免取得などに有利となる検定試験の意義を、さらに周知していく必要がある。英語科目担当教員、国際交流室、キャリアセンターなどと連携し、授業や学内において情報発信の協力を求めている。

また、試験対策のサポートや e-Learning の周知と共に、より積極的な活用を推奨し、好結果につながる支援を継続していく。

## IV. ACE 事務室

荒川 亜希

ACE 事務室では、これまで「検定試験」、「教材貸出」、「e-Learning」を中心に学習支援を行ってきた。加えて、2021 年度にはキャリアセンターとの連携でキャリア開拓塾生の英語学習サポートを開始し、2022 年度からは国際交流室と恒例イベントを共催で実施するなど、他部署との連携にも注力して取り組んできた。イベントについては ACE プログラムの項目、検定試験については英語検定試験の項目で詳細を述べているため、ここではそれ以外について報告する。

### 1. 教材貸出

事務室では小学校・中学校の英語教科書や、語学教材、多読本（Extensive Reading）などを多数揃え、教材室に配架している。これらの中で学生が最も興味を示しているのは、TOEIC®や英検などの検定対策教材である。今年度の貸出状況（表 1）で示されている通り、10 月・11 月の教材貸出が多い。これは 11 月に TOEIC® IP テスト（マークシート方式）を実施することや、後述するキャリア教育科目「キャリアデザイン」授業の ACE ツアーに拠るものと考えられる。

表 1. 教材貸出状況

2024/01/31までのデータ			
		貸出者数 (名)	合計冊数 (冊)
2023年	4月	7	11
	5月	20	29
	6月	24	33
	7月	18	23
	8月	4	7
	9月	11	20
	10月	36	64
	11月	36	53
	12月	32	49
	1月	19	26
2024年	2月	-	-
	3月	-	-
合計		207 <sup>※1</sup>	315

※1 延べ人数

## 2. e-Learning サポート

e-Learning に関するサポートもこれまで通り行っている。「英語 IA/IB」、「英語 IIA/IIB」の履修者は、e-Learning 課題達成度が成績評価の 10%に含まれているため、課題締め切り前には多くの学生から問い合わせが入ることとなる。今年度の傾向としては、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類へと移行となったこともあり、メールによる問い合わせでなく、直接事務室へ来る学生が増加した。内容のほとんどがログイン方法やパスワード再発行など利用手順に関するもの、次いで課題達成状況の確認である。

英語を履修している・いないに関わらず、全学部の学生が学習目的に合わせて e-Learning プログラムを選択して受講できることが本学の e-Learning の特色である。そのため、希望者への e-Learning プログラム紹介だけでなく、受講方法で不明な点が出てきた場合やトラブル発生時の相談窓口としての役割も果たしている。その他、e-Learning 業者による Virtual Live Training (オンライン英会話) の予約受付・教材配信・業者との調整も事務室が一括で担当している。

## 3. その他の学習支援

キャリアセンターが実施しているキャリア開拓塾については、その 1 期生から英語学習サポートを行っている。インターンシップや就職活動をする際に TOEIC®のスコアが求められていることから、TOEIC®対策教材、e-Learning プログラムの紹介や学習法など、まずは ACE を認知してもらうところから始め、続いて TOEIC®試験日までの学習計画や進捗状況の確認を行うことで、継続して ACE へ来てもらうようしているが、残念ながら今年度はキャリア開拓塾生がいなかったため実施することができなかった。

共通教育英語以外でも一部授業において ACE との関わりがある。学校教育専攻 1 回生の「基礎ゼミⅢ」で実施している得点管理シート(表 2)では、e-Learning の受講時間や ACE 企画イベントに参加することを項目としている。

表 2. 基礎ゼミⅢ 得点管理シート (一部抜粋)

<p>●英語教育センター (ACE) 10 点満点</p> <p>※1 「e-Learning 学内相談会」に出席・登録 (オリ)</p> <p>※2 “TOEIC TEST KICKOFF”の学習時間に応じて 1 点加算</p> <p>その他の項目は各 1 点。裏面の説明を参照。</p>	e-Learning		Lunch time 英会話		
	オリ *1	30 分 *2	Lunch time 英会話 1	Lunch time 英会話 2	Lunch time 英会話 3
	ACE イベントなど				
Virtual Live Training (VLT)	ACE Lesson 1	ACE Lesson 2	ACE Events	教材の貸出 (棟定限定)	

この得点管理シートをきっかけとして e-Learning 学習に取り組む学生やお昼休みにネイティブ講師と英会話が楽しめる「Lunch time 英会話」に参加する学生がいるので、一定の効果を感じている。「基礎ゼミⅢ」では得点管理シートの設定だけでなく、授業内で ACE ツアーも実施した。教材の案内や e-Learning プログラムの紹介、加えてオンライン英会話である Virtual Live Training のデモンストレーションを行うなど、幅広く ACE の活動を周知した。

キャリア教育科目である「キャリアデザイン」の授業内でも ACE ツアーを実施した(図1)。ここでは TOEIC® を中心としたものとし、一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会が公式に出しているデータを紹介しながら TOEIC®有用性を説明したうえで、試験対策の教材や e-Learning での学習法を伝え、最後に TOEIC® IP の申し込み案内をすることで、TOEIC®受験を広く推奨した。

図1. 「キャリアデザイン」ACE ツアー



その他、今年度は高大連携の一環として学校教育専攻が実施している教員育成プログラム 夏期スクーリングの時間割に ACE ツアーを入れてもらうことができた。東大谷高校の生徒には、e-Learning プログラム紹介や TOEIC®の説明を含めた ACE 紹介だけに留まらず、ACE 特任講師 フィリップ・ベイリー先生による英語アクティビティを実施したことで、ACE が本学の学生に向けて気軽に英会話を楽しめる場所ということが周知できた。

#### 4. 今後に向けて

検定対策の教材は毎年、新しいものが出版されるので、今後も学生の要望に応じて取り揃えていく。e-Learning については、共通教育英語を履修している学生のトラブル対応や課題達成状況の確認など、これまで通りきめ細かなサポートが必要である。加えて、インターンシップや就職活動として TOEIC®スコアアップを目指す学生に e-Learning 学習を

広く周知していく。キャリアセンターとの連携については、これまでの取り組みからセンターの学生がACEに来る傾向にあったので、この流れが確立するよう、部署間の連携強化とサポート体制を充実させる。また、他部署だけでなく授業との関連を持つことで、ACE ツアーのように直接学生と対面で話をする機会を増やし、英語学習の相談、検定試験・e-Learningに関する窓口としての認知度を高める取り組みをする。

これからも、本学の学生が継続して英語を学べる環境づくりをサポートしていきたい。



## V. 英語習熟度測定テスト

荒川 亜希・小山 敏子

本学の共通教育「英語 IA/IB」ならびに「英語 IIA/IIB」は、2018 年度から習熟度測定テストの結果に基づいた習熟度別クラス編成を行っている。導入時の検討段階において、ほとんどの大学ではこのプレイスメントテストを入学前にオンラインで実施していることが判明したが、本学では、学生全員が同じ環境で受験することを重視し、英語運用能力評価協会（ELPA）のマークシート方式テストを採用した。現在まで、継続して対面で行っている。テストは年に 2 回実施し、入学時に実施するテスト（プレイスメントテスト）のデータは「英語 IA/IB」のクラス分けに使用し、1 回生終了時に実施するテスト（アチーブメントテスト）のスコアで 1 年間の英語学習の進捗状況を確認すると同時に、「英語 IIA/IIB」のクラス編成を行っている。

### 1. 実施状況

プレイスメントテストは例年通り、入学式の翌日となる 2023 年 4 月 4 日（火）に実施した。準備に際しては ACE 事務室スタッフが中心となり、教務課スタッフと各学科の共同研究室スタッフの協力の下、従来通りの手順で午前と午後の 2 部に分けて行った。

試験当日は ACE 運営委員が監督責任者を務め、各学科の教職員が監督補助ならびに配布回収補助に携わり、新入生 481 名のうち、473 名（98.3%）が受験した（表 1）。このテスト結果をもとに、「英語 IA/IB」クラスの習熟度別クラス編成を行った。

アチーブメントテストも後期 16 週目にあたる 1 月 24 日（水）に実施した。ここ数年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、テスト時間を午前と午後に分けて実施していたが、今年度は全学部一斉に開始することができた。また、入学直後に行い履修登録締め切りまでに余裕がないプレイスメントテストとは異なり、アチーブメントテストは当日欠席者への配慮として、本試験の 1 週間後に追試験日を設定している。周知方法としては本学の Web ポータルサイト Active Academy を使用し、全学部 1 回生に情報を配信した。その結果、追試験も含めて、1 回生 470 名中 431 名（91.7%）が受験した。（表 2）。このテスト結果をもとに、2024 年度の「英語 IIA/IIB」クラスの習熟度別クラス編成を行う。

配慮を必要とする学生については、本学の学生課が入学予定者に対して「大学生生活支援カード」を配布、そこに記載された情報をもとに、アクセスルームの学生支援コーディネーターが個々の学生の状況を確認し、本人からの要望を聴取した上で受験できるように体制を整えている。年々、配慮を必要とする学生が増えていることから、実施前の学生支援コーディネーターとの打ち合わせは欠かせない。加えて、聴覚障害を持つ学生への対応については、

アクセスルームの学生支援コーディネーターと専門知識を持つ教育学部教員の補助を得ている。打ち合わせを踏まえて、座席の配慮や口達等の画面（紙面）提示、また別室受験などの対応を行っている。今年度のプレースメントテストでは人間社会学科 1 名、歴史文化学科 1 名、教育学部 1 名の計 3 名、アチーブメントテストでは、この 3 名に加えて薬学部 2 名において配慮対応が必要とされたが、どちらも事前に打ち合わせを行うことで、適切な対応ができた。

表 1. プレースメントテストの受験状況

2023/04/04実施			
学部・学科 在籍者数	受験者数 (名)	欠席者数 (名)	受験率 (%)
日語日本文学科 55名	52	3	94.5%
歴史文化学科 44名	44	0	100.0%
教育学部 140名	137	3	97.9%
- 幼児教育専攻 58名	58	0	100.0%
- 学校教育専攻 67名	64	3	95.5%
- 特別支援教育専攻 15名	15	0	100.0%
人間社会学科 51名	51	0	100.0%
スポーツ健康学科 99名	98	1	99.0%
薬学部 <sup>※</sup> 92名	91	1	100.0%
合計	481名	473	98.3%

※薬学部留年生除く

表2. アチーブメントテストの受験状況

		2024/01/24本試験実施 2024/02/02追試験実施		
学部・学科 在籍者数	受験者数 (名)	欠席者数 (名)	受験率 (%)	
日本語日本文学科 55名	51	4	92.7%	
歴史文化学科 43名	41	2	95.3%	
教育学科 137名	121	16	88.3%	
- 幼児教育専攻 58名	52	6	89.7%	
- 学校教育専攻 64名	54	10	84.4%	
- 特別支援教育専攻 15名	15	0	100.0%	
人間社会学科 49名	41	8	83.7%	
スポーツ健康学科 99名	93	6	93.9%	
薬学科 <sup>※</sup> 87名	84	3	96.6%	
合計	470名	431	91.7%	

※薬学部留年生除く

## 2. テストの結果

表3・表4は両テストの学科、専攻別の結果である。表中、「英語 IA/IB」を共通教育の外国語科目として履修している学生を「英語履修者」として示している。本学の場合、薬学部のみ「英語 IA/IB」、「英語 IIA/IIB」を必修科目としている中で、大半の学生が英語を履修していることが分かる。表3では、英語履修者の平均点が受験者全体よりも若干、高い傾向にあることが分かる。中学、高等学校時代から英語に対して苦手意識を持つ学生、または不得意としている学生は、本学入学後は他言語を履修していると推測される。

入学時に実施するプレイスメントテストと1回生終了時に受験するアチーブメントテストの平均点のスコアは、本学新入生の英語力の一年間の推移を示している。これらを比較すると、アチーブメントテストの平均点が全体で2.2点、英語履修者で2.1点、低い結果となった。学科ごとでスコアを比較しても、低い傾向となっている。両テストでは受験状況が異

なり、プレイスメントテストの受験率は 98.3%、アチーブメントテストでは 91.7%であることから、これらの数値からなんらかの知見を得ることは困難であるものの、薬学部では全体で 3.0 点、単位認定者を除いた英語履修者で 2.6 点、スコアが向上したことから、その要因なども含め、今後データを分析する必要がある。

表 3. プレイスメントテストの学科・専攻別結果

2023/04/04実施

	受験者数 ( )内は欠席者数	英語 履修者数	平均点		最高点 (300点)	最低点	標準偏差	
			全体	英語 履修者			全体	英語 履修者
全体 481名	473名 (8名)	462名	142.2	142.3	295.0	51.0	32.4	32.9
文学部 99名	96名 (3名)	84名	143.0	143.4	295.0	51.0	33.8	35.6
- 日文 55名	52名 (3名)	45名	142.3	142.7	207.0	93.0	28.0	29.3
- 歴文 44名	44名 (0名)	39名	143.9	144.2	295.0	51.0	39.5	41.2
教育学部 140名	137名 (3名)	140名	139.0	139.0	204.0	82.0	26.7	26.7
- 幼教 58名	58名 (0名)	58名	131.5	131.5	204.0	82.0	24.4	24.4
- 学教 67名	64名 (3名)	67名	145.7	146.1	204.0	84.0	24.5	24.5
- 特支 15名	15名 (0名)	15名	138.5	138.5	191.0	87.0	35.0	35.0
人間社会学部 150名	149名 (1名)	147名	131.9	131.8	246.0	73.0	26.9	27.2
- 人社 51名	51名 (0名)	48名	139.0	139.1	199.0	82.0	27.9	28.7
- スポ 99名	98名 (1名)	99名	128.2	128.2	246.0	73.0	25.7	25.7
薬学部 92名 <sup>※1</sup>	91名 (1名)	91名 <sup>※2</sup>	162.9	163.1	251.0	92.0	37.2	37.4

※1 薬学部留年生除く

※2 単位認定者1名

表 4. アチーブメントテストの学科・専攻別結果

2024/01/24本試験実施

2024/02/03追試験実施

	受験者数 (内は欠席者数)	英語 履修者数	平均点		最高点 (300点)	最低点	標準偏差	
			全体	英語 履修者			全体	英語 履修者
全体 470名	431名 (8名)	415名	140.0	140.2	277.0	10.0	37.2	37.6
文学部 98名	92名 (3名)	80名	139.9	140.7	277.0	57.0	32.4	33.3
- 日文 55名	51名 (4名)	43名	141.0	140.3	207.0	91.0	25.8	26.2
- 歴文 43名	41名 (2名)	37名	138.6	141.2	277.0	57.0	39.0	40.1
教育学部 137名	121名 (6名)	121名	134.9	134.9	244.0	10.0	35.3	35.3
- 幼教 58名	52名 (6名)	52名	129.6	129.6	244.0	55.0	31.0	31.0
- 学教 64名	54名 (10名)	54名	140.2	140.2	203.0	59.0	33.6	33.6
- 特支 15名	15名 (0名)	15名	134.4	134.4	226.0	10.0	49.6	49.6
人間社会学部 148名	134名 (14名)	131名	128.6	130.1	235.0	70.0	30.5	30.8
- 人社 49名	41名 (8名)	38名	140.4	141.7	186.0	86.0	28.0	28.6
- スポ 99名	93名 (6名)	93名	123.3	123.3	235.0	70.0	30.0	30.0
薬学部 87名 <sup>※1</sup>	84名 (3名)	83名 <sup>※2</sup>	165.9	165.7	276.0	90.0	42.1	42.3

※1 薬学部留年生・休学者除く

※2 単位認定者1名

### 3. 今後に向けて

英語習熟度測定テストの実施は、教務課や各学科、アクセスルームなどの協力を得て、手順を単純化し、効率良く実施することができている。しかしながら、準備の手間やマークシートの配布・回収作業、試験監督を担う教員の労力を考慮すると、年々オンライン方式の需要が高まっていることは否めない。英語教育センターでは、2021年度より習熟度測定テストの再検討を始めている。そこで見えてきたことは、導入当初と現在とでは、入学者の傾向について変化を感じていることである。そのため、まずはこれまで蓄積されたデータを分析することが必須である。スコアの経年変化や学科ごとの傾向、共通教育英語クラスとの関連も含めた分析も必要となるだろう。また、他大学の実施状況や他社のテストなどの情報収集

もこれまで通り行っていき、現行の習熟度測定テストが本学学生に適しているかどうかなど、テストのあり方も含め見直しを図っていきたい。

## VI. テキストバンクの再選定

鈴木 幸平

英語教育センターでは、2015年の英語教育検討委員会で行われた議論を踏まえ、英語IA/IB(新カリキュラムでは英語A/B)においては高等学校卒業までの英語科既習内容を網羅的に復習して英語基礎力を強化するリメディアル教育を、英語IIA/IIBにおいては英語IA/IBで培った英語基礎力を発展させ、各学部の専門教育プログラムへ繋ぐことができるカリキュラムデザインを提供してきた。

また、2018年度の「共通教育 外国語科目」のシラバス統一化を機に、テキストバンクを設定し、授業担当者は設定された教材から、教材を選定する方式を採っている。しかしながら、テキストバンクが設定されてから、5年が経ち、本文の内容が古くなってきた教材もあることから、次年度からのカリキュラム改革に合わせて、教材の再選定を行った。

教材の再選定にあたり、以下の基準を設けた。

- a. 英語4技能のうち、特定の技能のみに偏った内容でないこと。
- b. 本文の内容が時代に即したものであること。
- c. 難易度が受講する学生に適したものであること。

これらの基準を念頭に置いて、教材のテキストバンクの再選定を行った。

表1. テキストバンク内訳

		2023年度	2024年度			2023年度	2024年度
基礎	英語A/B	3	1	基礎	英語IIA/IIB	4	4
	英語A	3	2		英語IIA	3	2
	英語B	2	2		英語IIB	3	2
標準	英語A/B	3	3	標準	英語IIA/IIB	4	4
	英語A	4	3		英語IIA	2	2
	英語B	3	2		英語IIB	2	2
合計		18	13	合計		18	16

今後の課題として、英語A/B基礎クラスで、通年で用いることのできる教科書をリストアップできるようにすることが挙げられる。今日、多くの大学で、多様なカリキュラムが展開されているため、管見の限り国内の出版社から通年で使用可能な教科書がほとんど出版されていないという現状がある。今後は海外の出版社から出版されている教材を積極的に含め、さらに広い範囲から教材を選定するよう努めたい。

## VII. 広報活動

池田 香代

英語教育センター（ACE）の役割は、本学における英語教育の拠点として、学生たちの英語力を上げることである。このため、活動内容を適切に伝える広報活動が欠かせない。2023年度は、フライヤーの作成と掲示、ホームページの作成と更新、各種広報媒体への掲載、オープンキャンパス活動に加え、新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行に伴い、自主的な感染対策を講じながらも積極的なイベントの開催など、多方面にわたる広報を行った。

### 1. フライヤー作成・掲示

ACEを紹介するフライヤーを新入生に配布した（図1、A4両面／表面カラー）。

また、一年を通して、各種案内用のフライヤーも作成した。英検、TOEIC®学内試験・オンライン試験、e-Learning学内相談会、七夕の集い、Summer Activity、ハロウィンイベント、ウィンターイベント、Spring Activityなどである。これらのフライヤーは、本学ホームページで案内するとともに、学内に掲示することで、学生への周知をはかった。

図1. 2023年度フライヤー（表）



### 2. ホームページ・各種広報媒体への掲載

本学ホームページにおいて11コンテンツを運営し、英語情報の提供とACEの宣伝に努めた（コンテンツは「ACE PV」「新着情報」「センター長メッセージ」「英語教育センターのご案内」「センター教員」「英語教育センターの役割」「利用案内」「e-Learningについて」「資格・検定試験について」「ACE REVIEW（年次レポート）」「Blog SPEAK EASY」）。

とくに「新着情報」では、ACEプログラムやイベント、講座についての案内や報告を速やかに掲載し、学生の関心を高めるよう心がけた（図2）。

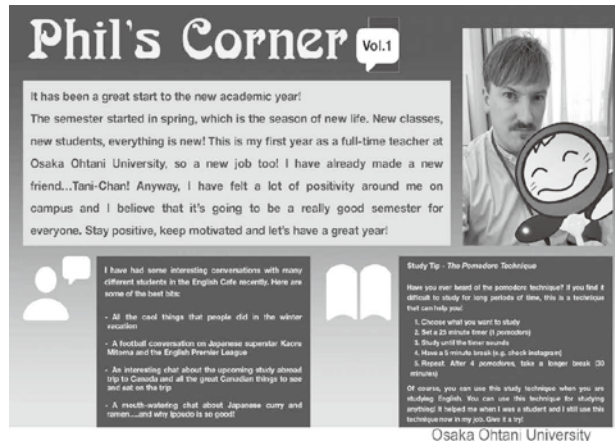
図2. ホームページ





また、2023年度の新しい企画として、今年度英語教育センター特任講師で就任された Philip Bailey 先生による「Phil's Corner」を掲載した(図3)。Bailey 先生が本学に着任されて感じたこと、勉強法などを紹介していくもので、計3回公開した。ユニークな人柄とともに、ネイティブ講師が直接学びのポイントを示す機会として発信することができた。

図3. Phil's Corner



紙媒体の広報としては、本学の『大学案内』に ACE の施設で実施している企画や学習サポート内容を掲載した(図4)。さらに、オープンキャンパス DM やリーフレット、学生ハンドブックなどにおいても ACE の広報に努めた。

図4. 大学案内



### 3. オープンキャンパス

2023 年度オープンキャンパスは、ACE 企画は午後の実施となり、以下の表 1 の通り、初回を除く計 5 回実施できた。実施内容については、体験企画の提供とキャンパスツアーの受け入れである。

体験企画においては 14:15~14:45 にセミナー室で英会話レッスン「ベイリー先生と英会話を楽しもう」、また 15:00~15:30 に教材室で「e-Learning 体験コーナー」を設けた。いずれの場合も、訪問者の関心にあわせて柔軟に運用することを心掛けた。企画以外の時間帯は、教室前を通るキャンパスツアー参加者などに企画を案内した。ベイリー先生自らがレッスンへの参加を呼び掛けたことで、ネイティブスピーカーと話せるチャンスと思い参加した方も見受けられた。参加者の中には、少なくとも英語に興味のある学生はいる。ネイティブ講師の存在の偉大さを改めて感じさせられた。

表 1. 2023 年度オープンキャンパス参加者数

内容	時間・場所	人数	備考
1回目 5/27 不参加 (土)			
「ベイリー先生と英会話 を楽しもう」	14:15~14:45 セミナー室	2名 (+保護者2名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>志学館1階や5階に掲載するポスター (A3×4) を作成</li> <li>English Caféのモニターをセミナー室前に出して、動画を再生</li> <li>ACEのフライヤーと国際交流室のパンフレットを志学館5階の2箇所に設置</li> </ul>
「e-Learning 体験コーナー」	15:00~15:30 教材室	-	
「ベイリー先生と英会話 を楽しもう」	14:15~14:45 セミナー室	1名 (+保護者1名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパス当日の10時頃にCREWS oh!!の学生がキャンパスツアーの事前準備でキャンパスを回るので、英会話レッスンのことを伝え、英語に興味のある学生がいれば、英会話レッスンに連れてきてもらうよう依頼する</li> </ul>
「e-Learning 体験コーナー」	15:00~15:30 教材室		
「ベイリー先生と英会話 を楽しもう」	14:15~14:45 セミナー室	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な実施内容は7月と同様</li> <li>志学館1階のポスターを横→縦に変更</li> <li>志学館前の看板に「5階英語教育センター」を表示してもらう</li> </ul>
「e-Learning 体験コーナー」	15:00~15:30 教材室	-	
「ベイリー先生と英会話 を楽しもう」	14:15~14:45 セミナー室	1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>志学館前の看板に「5階英語教育センター」を表示してもらう</li> </ul>
「e-Learning 体験コーナー」	15:00~15:30 教材室		
「ベイリー先生と英会話 を楽しもう」	14:15~14:45 セミナー室	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はプレ入試をなくして、入試対策講座に変更</li> <li>ACE企画の実施時間・内容の変更なし</li> </ul>
「e-Learning 体験コーナー」	15:00~15:30 教材室	-	

#### 4. 今後に向けて

2022年度に完成した新しいACEロゴは、ロゴ入りグッズ(クリアファイルや付箋など)として活用され、各種イベントの参加者や受賞者に贈呈の賞品として好評を得ている。

2023年度は、新型コロナ5類移行に伴い、自主的な感染対策を行いながら、広報活動も常態に近づけ実施できた。国際交流室との共催イベントでは、例年実施していたハロウィンイベントやウィンターイベントに七夕の集いも加わり、英語を身近に楽しめる企画も、盛況のもと開催できた。

今年度は英語を母国語とする特任講師も決定し、ネイティブ講師を主軸に置いたホームページの新企画を掲載、また学生たちに英語を学ぶ楽しさと英語を身近に感じてもらえるためのイベントの企画など、その活発な広報活動を行うことができた。

オープンキャンパスの参加者が振るわなかった要因としては、学科の企画と重複する時間帯であったことが考えられる。妥当な開催時間の検討を入試対策課とともに進めていく必要がある。

2024年度以降もさらなる広報活動を推進していきたい。

## VIII. 英語入試作問

小山 敏子

今年度も、英語担当専任教員 5 名で 6 つの入試の作問作業にあたった。2016 年度の英語教育センター設置準備室設置以降、本学の学外入試の英語作問作業の統括を ACE が担ってきたが、英語教員数の減少による作問作業の負担増とともに、ACE 運営委員は、各教員の専門性にかかわらず入試問題の校正作業を担当している。

出題範囲は、例年通り高等学校学習指導要領で目標とされている「英語での情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりする基礎的な英語運用能力」をみることに主眼をおいて作成している。また、出題形式は多肢選択問題（マークシート解答）である。作問、校正作業は、準備室時代に楠本豊入試広報室長とともに制定した「英語出題ミス・採点ミス防止のマニュアル」に則って慎重に行っているため、問題は発生していない。

受験生に対して公開している入試の出題傾向と対策については表 1 の通りである。

表 1. 本学入試（英語）の出題傾向と対策

	入試区分	
	公募制推薦入試（前期<A・B日程>・後期）	一般入試（前期・中期・後期）
傾向	①問題構成は大問5つ程度。 ②語彙・文法・語法の知識を測る問題と対話の流れを読み取る会話文が出題される。 ③600 words程度の英文の読解力が問われる。 ④対話文を正確に構成できる力も問われる。	①問題構成は大問5つ程度。 ②語彙・文法・語法の知識を測る問題と対話の流れを読み取る会話文が出題される。 ③700 words程の英文の読解力を問われる。 ④対話文を正確に構成できる力も問われる。
対策	①長文は英字新聞のコラムなどから出題されるため、日頃からまとまった文量の英文を読み、内容を把握する練習をしておくこと。 ②高等学校で学習した語彙・文法・語法の知識の復習をしておくこと。 ③日常会話で使われる慣用表現を身につけておくこと。	対策の基本は公募推薦入試①、②、③と同様であるが、一般入試は、長文問題の語数が多くなる。また、その他の問題でも選択肢が増えるなど難易度があがることに留意すること。

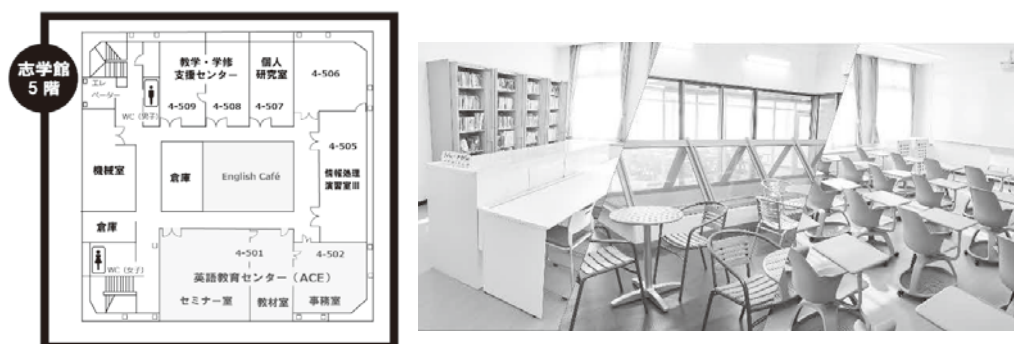
なお、高等学校の新学習指導要領（平成 30 年度告示）の全面実施をうけて、次年度から試験科目も変更となるが、年々、入試形態が多様化している現状をふまえ、現行の出題構成（詳細は『ACE Review 2021』を参照されたい）の見直しも検討する時期がきていると考えられる。

## IX. 施設整備

森本 正太郎

2017年度4月に本学の英語教育の運営拠点として設立されたACEは、志学館(4号館)5階に位置しており、教材室、English Café、ACE事務室の4つの施設を持つ。(図1)。これらの施設はそれぞれACE事務室で管理しており、英語の授業だけでなく、ACE特任講師が企画・実施しているACE LESSONS やランチタイム英会話などでも活用している。(ACE事務室、ACE Program 参照)ここでは施設のうち主にセミナー室に関連する設備について報告する。

図1. 志学館5階MAP、ACE(左から教材室・English Café・セミナー室)



### 1. セミナー室設備

セミナー室には様々な用途に対応できるよう設備が整っている。ホワイトボードを電子黒板として扱うことを可能とする超短焦点のプロジェクターが設置され、それに常時接続しているデスクトップPCはもちろん、Apple TVを設置しそこからの配信、OHCによる紙媒体、さらにHDMIケーブル経由による持ち込みPCからの映像を投影できる。これらは教員の手元にあるスイッチャーにより、様々な媒体の情報を教材として、受講者にストレスを与えることなく切り替えて活用できる。

また、図2の通りiPadも設置されている。これらのiPadは教育用に管理するためにMDM(Mobile Device Management、モバイルデバイス管理システム)で一括管理されている。例えば、学生個人のアカウント同期を禁止、アプリのインストール禁止、削除を禁止するなど、様々な制限をかけセキュリティを維持している。その一方で必要とするアプリ(英語辞書アプリLongman、WISDOM)については、ACEで一括購入してMDMを通じて各iPad上で学生が利用できるよう設定されている。また、既設のApple TVを使ってミラーリングすることで、iPadの情報をすぐにプロジェクターに投影し、情報共有できることも

セミナー室の大きな特長である。以上のようにセミナー室は英語関連、(英語に関わる) ICT 活用の授業・セミナー、ならびに ACE Program などで活用している。

図 2. セミナー室 iPad とプロジェクター



## 2. iPad のリプレイス

一般的に ICT 設備の保守契約は最大で 5 年である。ACE 設立当初 (2017 年度) に取得した iPad も 2021 年度までで保守契約が切れた。これまでも毎年複数台の故障が出たものの、保守契約 (5 年) 終了までは、iPad 本体の無償交換で対応できていた。5 年を超えて利用を継続すると、ますます故障台数は増加することが懸念される。加えて、OS (基本ソフト) のバージョンを上げる際に不具合を起こすアプリが出てくることも考えられるが、保守契約終了後は修理・交換ができないため、授業運営に支障を来すことが懸念された。このような状況に鑑み、2022 年度に新機種へのリプレイスを行った。また、その際に iPad 運用状況を精査して、台数や常時導入するアプリの見直しを合わせて行った。この見直しにより、使用されていないアプリは回収し、設置台数も 33 台から 31 台へとスリム化を図った。

リプレイスを機に MDM のシステムも精査して、導入時のシステムから株式会社大塚商会の提供する「たよれーる DMS」へと変更した。MDM はその操作性によって運用に費やす人的・時間的リソースはかなり異なることが分かってきた。導入当初の MDM は操作方法が複雑であったことから、アプリのインストールや iPad の設定変更に多大な時間を要していた。新規導入した MDM では、業者のヘルプデスクによる電話対応やリモート対応を含む運用支援サービスの利用が可能であり、iPad の制御・管理・トラブル対応の人的・時間的な負担が大幅に軽減されることが期待される。一時は世界的な半導体供給不安の影響を受け予定より遅延したが、2022 年度 3 月、無事にリプレイスが完了した。

## 3. 今後に向けて

iPad はリプレイスできたので、設置から 7 年が経過し、故障により授業などに支障の出る懸念も大きくなることから、他の機器・設備も整備を順次行っていきたい。

## 執筆者一覧

荒川 亜希	英語教育センター 職員
池田 香代	人間社会学部 スポーツ健康学科 准教授
Myles Grogan	人間社会学部 人間社会学科 准教授
小山 敏子	教育学部 教育学科 教授
杉本 香	文学部 日本語日本文学科 准教授
鈴木 幸平	教育学部 教育学科 准教授
Philip Bailey	教育学部 教育学科 特任講師
Beh Siewkee	教育学部 教育学科 准教授
森本 正太郎	薬学部 薬学科 教授

(五十音順)

---

## ACE REVIEW 2023

2024 年（令和 6 年）3 月 31 日発行

編集発行 大阪大谷大学 英語教育センター（ACE）  
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北 3 丁目 11-1  
TEL (0721)24-0596

印刷 協和印刷株式会社  
〒615-0052 京都市右京区西院清水町 13  
TEL (075)312-4010

---

A digital version of this publication is available for download at  
[www.osaka-ohstani.ac.jp/facilities/ace/review.html](http://www.osaka-ohstani.ac.jp/facilities/ace/review.html)



# IN THIS ISSUE

- ACE Program
- 学習支援
  - e-Learningプログラム関連
  - 英語検定試験
  - ACE事務室
- 教務関連
  - 英語習熟度測定テスト
  - テキストバンクの再選定
- その他の事業
  - 広報活動
  - 英語入試作問
  - 施設整備

Email: [eikyou-center@osaka-ohtani.ac.jp](mailto:eikyou-center@osaka-ohtani.ac.jp)

Tel: 0721-24-0596

HP: <https://www.osaka-ohtani.ac.jp/facilities/ace/>